

第 2 学 年
理 系

2025年度 国語科 年間授業計画表						
科目名		文学国語	単位数	2	学年・類型	2年
担当者			使用教科書	筑摩書房『文国708 文学国語』		副教材
科目の目標 (指導目標)		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。				
②思考・判断・表現		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。				
③主体的に取り組む態度		言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。				
評 価 方 法						
授業態度・クラス内発表・課題・定期試験						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	随想・評論（一）	第1章 ことばから広がる世界 「情報の彫刻」	① 紙の書籍の魅力がどのような点にあるか、筆者の考えを読み取る。 ② 電子メディアの普及により文学作品を読む行為にどのような変化が生じてくるか、話し合う。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（二）	第3章 背後にあるメッセージ 「ラムネ氏のこと」	① 本文中のたとえ話に隠れたメッセージを読み取る。 ② 筆者の考える「一生の業」とはどのようなものか、話し合う。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
1 学 期 後 半	小説（一）	第2章 物語との出会い 『山月記』	① フィクションの世界に際立つ人間の本質を読み取る。 ② 漢文訓読調の文体のリズムを味わう。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
	随想・評論（三）	第4章 現実を揺さぶる想像力 「記号論と生のリアリティ」	① 「記号学」についての筆者の考え方を理解する。 ② 文学的な表現が読み手にもたらす効果を考える。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	詩歌（一）	第8章 調べとリズム 短歌	② それぞれの短歌の表現上の技法や、その内容について読解する。 ② 「死にたまふ母」連作について、「母」を表現するのにどのようなことばや枕詞が使われているか、説明する。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			

2 学 期 前 半	随想・評論（四）	第6章 過去との対話 「死者の声を運ぶ小舟」	① 「文学の力」について、筆者の主張を読み取る。 ② 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ③ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（五）	第7章 世界観を築く 「建築論ノート」	② 比喩とレトリックを駆使して展開された論理の流れをつかむ。 ② 比喩やレトリックの効果について話し合う。 ③ 本文を参考にして建築と人間について自分の考えをまとめ、400字程度で書く。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
2 学 期 後 半	小説（二）	第5章 自己と向き合う 『こころ』	① 登場人物の関係性を理解し、各人の心理の揺れ動きを読み取る。 ② 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ③ 人間性の本質に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
3 学 期	詩歌（二）	第8章 調べとリズム 「永訣の朝」	① 表現や内容について読み解く。 ② 構成・リズムに注意して朗読する。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（六）	第9章 思考の道筋をたどる 「化物の進化」	① 筆者の主張は何を意味するか、読み解く。 ② 身の周りの自然現象を科学的に捉える視点を身につける。 ③ 人間と自然に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
留意事項						

2025年度				国語科		年間授業計画表				
科目名		古典探究		単位数	2	学年・類型	2年理系			
担当者				使用教科書		古典探究 古文編・漢文編(第一学習社)		副教材		
科目の目標 (指導目標)		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								
		(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。								
		(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
		(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨										
①知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。								
②思考・判断・表現		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。								
③主体的態度		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。								
評 価 方 法										
授業態度 ・ 発問評価 ・ 発表 ・ 学習課題集の提出 ・ 定期テスト										
学 習 指 導 計 画										
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標					評価の観点		
								①	②	③
1 学 期 前 半	説話（一）	古今著聞集 「小式部内侍が大江山の歌のこと」	①著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ②説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 ③文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。							
	随筆（一）	方丈記 「ゆく河の流れ」	①鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ②和漢混清文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。					○	○	○
	故事・寓話	「推敲」 「知音」	①現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ②故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。							

1 学 期 後 半	随筆（二）	草子 「すさまじきもの」 「二月つごもりごろに」	①内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に表れたものの見方や考え方を理解する。 ②自由な文体の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③随筆に表れたものの見方・考え方・美意識を理解し、積極的に自分の考えを伝え合おうとしている。			
	項羽と劉邦	史記「鴻門の会」	①登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ②史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ④我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ⑤各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。	○	○	○
2 学 期 前 半	物語（二）	源氏物語「桐壺」	①歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ②長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。			
	項羽と劉邦	史記「四面楚歌」	①追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ②史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑤語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ⑥我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。	○	○	○
2 学 期 後 半	漢詩の鑑賞	碩中作	①漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ②漢詩の特徴について理解を深める。 ③漢詩の構成・展開のしかたについて理解を深める。 ④漢詩に表れる表現の特色について理解を深める。			
	物語（二）	源氏物語「若紫」	①歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ②長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。			
2 学 期 後 半	随筆（一）	徒然草 「あだしの露消ゆると きなく」	①争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 ②さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○	○	○
	項羽と劉邦	史記「四面楚歌」 (項王の最期)	①追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ②史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑤語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ⑥我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。			

3 学 期	物語（二）	大鏡「花山天皇の出家」	①歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ②歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。			
	諸家の思想	孟子「何必曰利」 「性善」 韓非子「侵官之害」	①『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。 ②思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑤我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ⑥訓読のきまりについて理解を深める。 ⑦儒家と対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解する。	○	○	○
留意事項						

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	歴史総合		単位数	2	学年・類型	2年理系
担当者		使用教科書	歴史総合 近代から現代へ（山川）		副教材	なし
科目の目標 (指導目標)	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
① 知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。					
② 思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身につけようとしており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史と文化に対する関心、他国の歴史と文化を尊重することの大切さについて自覚している。					
評 価 方 法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期	歴史の扉			○	○	○
	① 歴史と私たち	○日本と洋菓子	○身近な「もの」に注目して、世界の歴史との関連を理解すること			
	② 歴史の特質と資料	○台湾における砂糖の生産	○様々な資料から、どのような歴史を叙述できるかを考えさせ、理解を深める。			
	第Ⅰ部 近代化と私たち	1 結びつく世界	○産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解すること	○	○	○
		2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	○産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命などを取り上げて、多面的・多角的に考察し、歴史的意義を理解し表現すること	○	○	○
		3 明治維新と日本の立憲体制	○産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○
4 帝国主義の展開とアジア		○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○	
	○近代化と現代的な諸課題	○「自由・制限」および「開発・保全」という2つの視点から、近代化と現代の諸課題について考察し、理解を深め、表現する。	○	○	○	

2 学 期	第Ⅱ部 国際秩序の変化 や大衆化と私た ち	○国際秩序の変化や大衆化への 問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察し、その内容を表現する。	○	○	○
		5 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解すること ○大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること	○	○	○
		6 経済危機と第二次世界大戦	○世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動向を理解すること ○第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢の関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
		7 戦後の国際秩序と日本の改革	○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること	○	○	○
		○国際秩序の変化や大衆化と 現代的な諸課題	○「対立・協調」「平等・格差」および「統合・文化」という3つの視点から、近現代の諸課題について考察し、表現する。	○	○	○
3 学 期	第Ⅲ部 グローバル化と 私たち	○グローバル化への問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察して、その内容を表現する。	○	○	○
		8 冷戦と世界経済	○冷戦構造の成立とその展開について、米ソ、東西ヨーロッパの動向を中心に理解し、そのなかでの日本の動向についても考察して、理解を深める。また、アジア・アフリカなどの第三世界にも着目し、冷戦の時代について多面的多角的に考察し、理解を深める。	○	○	○
		9 グローバル化する社会	○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○
		10 現代の諸課題	○冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散 第2章 地理歴史科の各科目の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
		○現代的な諸課題の 形成と展望	○歴史総合の学びのまとめとして、現代につながる課題を設定し、資料にもとづいて考察して、その内容を表現する。	○	○	○
留意事項		本科目の履修は2学期前半までの半年間（週4時間）で実施する				

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	地理総合		単位数	2	学年・類型	2年文系・理系
担当者		使用教科書	新地理総合（帝国書院） 高等地図帳（二宮書店）		副教材	地理総合演習ノート（啓隆社） 詳細地理資料COMPLETE2025(帝国書院) 地理統計Plus-webGIS付き(帝国書院)
科目の目標 (指導目標)	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。					
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養おうとしているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される者としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚している。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、思考力を問う小テスト等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価等						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	第1部 地図でとらえる 現代社会	第1章 地図と地理情報システム 1.地球上の位置と時差 2.地図の役割と種類	◆現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。 ◆日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ◆現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ◆現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現する ◆地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する	○		
		第2章 結びつきを深める現代世界 1.現代世界の国家と領域 2.グローバル化する世界		○	○	○
1学期後半	第2部 国際理解と 国際協力	第1章 生活文化の多様性と 国際理解 1.世界の地形と人々の生活 2.世界の気候と人々の生活 ・モンスーンの影響を受ける地域での生活（東南アジア）	◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
				○	○	○

2 学 期 前 半	第2部 国際理解と 国際協力	3.世界の言語・宗教 ・イスラーム（中央アジア・西アジア・北アフリカ） ・ヒンドゥー教（インド） 4.歴史的背景 ・移民の歴史（北アメリカ） ・植民地支配の歴史（中 アフリカ） ・国家体制の変化（ロシア） 5.世界の産業 ・産業力（アメリカ） ・経済成長（東アジア） ・地域統合（ヨーロッパ）	◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
2 学 期 後 半	第2部 国際理解と 国際協力	第2章 地球の課題と国際協力 1.複雑に絡み合う地球の課題 2.地球環境問題 3.資源・エネルギー問題 4.人口問題 5.食糧問題 6.都市・居住問題	◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。 ◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球の課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
3 学 期	第3部 持続可能な 地域づくりと 私たち	第1章 自然環境と防災 1.日本の自然環境 2.地震・津波と防災 3.火山災害と防災 4.気象災害と防災 5.自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1.生活圏の調査と地域の展望	◆我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ◆様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ◆地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ◆生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。 ◆生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○		
留意事項						

2025年度 数学 科				年間授業計画表		
科目名	数学Ⅱ・B・C	単位数	3・1・2	学年・類型	2年 理系	
担当者		使用教科書	高等学校 数学Ⅱ・B・C (数研出版)	副教材	クリアー数学Ⅱ+B, C (数研出版) チャート式Ⅱ+B, C (数研出版)	
科目の目標 (指導目標)	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。					
③主体的態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					
評 価 方 法						
記述の点検、確認、分析 行動の点検、確認、分析（定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等）						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	【数学Ⅱ】 第4章 三角関数	第1節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	○	○	
		第2節 加法定理	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	○
1学期後半	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	
		第2節 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	○
	【数学B】 第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	○		
		第2節 いろいろな数列	和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できる。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。	○	○	

2 学期 前半	【数学B】 第1章 数列	第3節 漸化式と数学的帰納法	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できる。	○	○	○
	【数学C】 第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できる。	○		
	【数学C】 第1章 平面上のベクトル	第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。また、図形を、ベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできる。	○	○	○
	第2章 空間のベクトル	—	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できる。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できる。	○	○	○
2 学期 後半	【数学Ⅱ】 第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	○		
		第2節 関数の値の変化	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できる。	○	○	
		第3節 積分法	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	○	○	○
	【数学C】 第3章 複素数平面	—	複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を、図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できる。	○	○	○
3 学期	第4章 式と曲線	第1節 2次曲線	放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできる。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられる。	○	○	
		第2節 媒介変数表示と極座標	曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。また、極座標の仕組みについて理解し、図形を極方程式で表したり、極方程式が表す図形を求めたりできる。さらに、コンピュータを用いるなどして、様々な曲線についてその方程式や概形について、主体的に考察しようとする。	○		○
留意事項						